# TAYCA REPORT

## 第149期　年度報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

WE TRY NEW

いつも未来に挑戦

TAYCA

テイカ株式会社

証券コード：4027

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

当社は平成27年3月31日をもちまして、第149期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）を終了いたしましたので、決算の概況などにつきまして、ご報告申しあげます。

平成27年6月

代表取締役社長　**名木田　正男**

## 当期の業績について

当期は、汎用用途の酸化チタンの売上が需要低迷の影響を受け減少したものの、化粧品向けの微粒子酸化チタン等の機能性製品の販売及び界面活性剤の国内やタイ連結子会社の販売が好調に推移、さらにエレクトロ・セラミックス製品の売上が増加いたしました。その結果、売上高は371億2千万円（前期比2.6％増）、営業利益は38億4百万円（前期比44.2％増）、経常利益は39億2千万円（前期比46.1％増）、当期純利益は24億6千万円（前期比47.5％増）となりました。

なお、当期の期末配当金につきましては、1株当たり4円とさせていただき、中間配当金1株当たり4円と合わせ、年間で1株当たり8円となります。

## 次期の見通しについて

当社グループを取り巻く事業環境は、まず、酸化チタンに関しましては、原油価格の急落等の環境変化はあるものの、世界的な供給過剰等による海外メーカーとの販売競争により、依然として収益面は厳しいものと予想しております。

微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛及び表面処理製品に関しましては、紫外線対策への関心が高まり、ＵＶカット剤としての需要も旺盛であるため、市場は国内外ともに拡大していくものと予想しております。また、昨年より進めておりました表面処理製品の設備増強工事は平成27年4月に完了し、更なる拡販に努めてまいります。

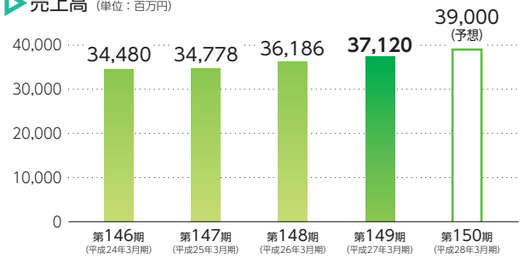
界面活性剤に関しましては、国内洗剤市場の需要拡大が見込めない一方で、東南アジアでの洗剤市場は成長が著しく、タイの連結子会社の販売は好調で、フル生産に近い操業を継続しております。そのため、平成26年2月、東南アジアにおける新しい拠点としまして、ベトナムに連結子会社を設立し、平成27年9月完成に向け工場建設を進めております。

以上の状況から、次期の連結業績につきましては、現時点で売上高390億円、営業利益42億円、経常利益42億円、当期純利益25億円を見込んでおります。

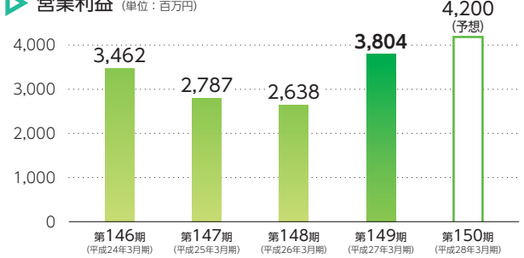
なお、次期の配当金につきましては、現時点で当期に比べ2円増配し、中間配当5円、期末配当5円を合わせ、1株当たり10円を予定しております。

## 連結財務ハイライト

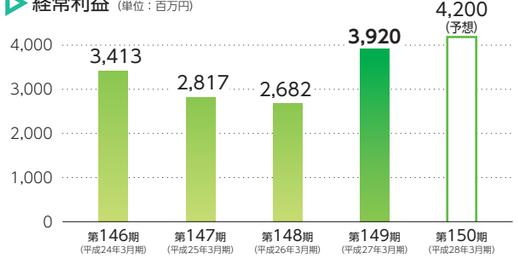
### 売上高（単位：百万円）



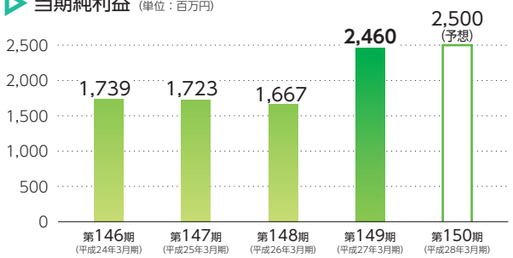

### 営業利益（単位：百万円）




### 経常利益（単位：百万円）




### 当期純利益（単位：百万円）



## 酸化チタン関連事業

●汎用用途の酸化チタンは、国内の塗料・インキ向けが低迷、輸出もアジア市況悪化により、国内・輸出ともに販売数量は減少し、売上高も前期を下回る。

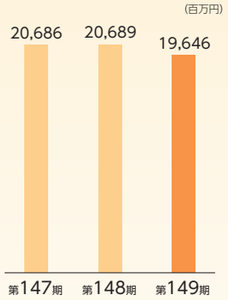
●機能性用途の微粒子酸化チタンは、欧州、新興国向けの輸出が好調で、販売数量、売上高ともに前期を上回る。

●表面処理製品は、夏場の天候不順等の影響により販売数量が減少し、売上高も前期を下回る。

売上高
酸化チタン関連事業
19,646
百万円
52.9%

セグメント別
売上高構成比

5.0%減
（前期比）




| 主要な事業内容 | 会社名 |
|---|---|
| 酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品、赤外線遮蔽酸化チタン、光触媒用酸化チタン等の製造、販売 | 当社<br>テイカ商事㈱ |

## その他事業

●界面活性剤は、主用途の洗剤等日用品向けが好調に推移、タイ連結子会社も好調に推移し、売上高は前期を上回る。

●無公害防錆顔料は、国内の建築関連向けの需要低迷により、売上高は前期を下回る。

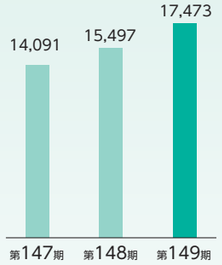
●硫酸の売上高は前期並を維持。

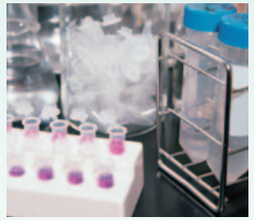
●導電性高分子薬剤は、コンデンサ向けの販売が順調に推移し、売上高は前期を上回る。

●倉庫業は荷扱量が増加、エレクトロ・セラミックス製品は医療向けの販売が好調に推移し、売上高は前期を上回る。

売上高
その他事業
17,473
百万円
47.1%

12.8%増
（前期比）



| 主要な事業内容 | 会社名 |
|---|---|
| 界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料、導電性高分子薬剤、エレクトロ・セラミックス製品等の製造、販売<br>化学工業薬品等の輸送、保管 | 当社<br>テイカ倉庫㈱<br>テイカ商事㈱<br>ティーエフティー㈱<br>テイカM&M㈱<br>TAYCA (Thailand) Co.,Ltd.<br>TAYCA (VIETNAM) CO.,LTD. |



# TOPICS トピックス

## テイカ東京クリエーションラボラトリーを開設

当社は、化粧品分野に特化した研究室「テイカ東京クリエーションラボラトリー」を開設し、平成27年5月19日より業務を開始しました。

この研究室を通じて、酸化チタンや酸化亜鉛を中心とする当社の製品を最大限に活用していただけるよう、情報発信に努めてまいります。

住所：東京都中央区日本橋3丁目8番2号
（新日本橋ビルディング3階）
東京支店の1階下の部屋になります。

## 化粧品向け新製品を開発

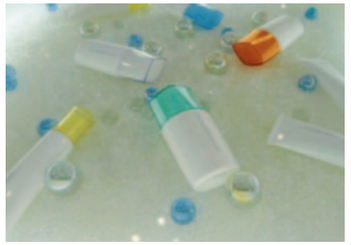
当社は、化粧品向けの新製品として

・最近のトレンドである水系ジェルタイプ製剤に適した微粒子水分散体（WZ-PF02）

・ファンデーションなどには欠かせない皮脂吸着パウダー（T-HT E304）

・化粧品に高配合可能な分散体（FLT、FLZシリーズ）

などを開発しました。

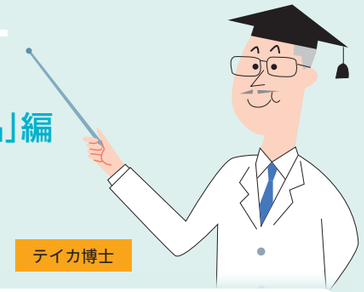


平成27年6月3日～5日にパシフィコ横浜で開催されました国内最大の化粧品原料の展示会「CITE JAPAN 2015」においてこれらの製品を発表いたしました。

特集

# テイカのチカラ Vol.3 製品力「表面処理製品」編

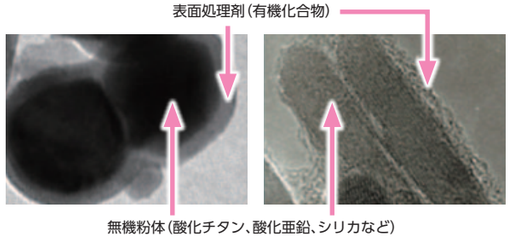
テイカの事業について、分かりやすくテイカ博士がご紹介します。
第3回は「表面処理製品」です。

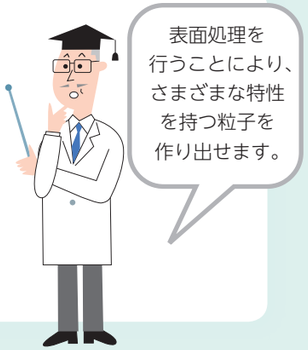



## 表面処理製品

### 当社の表面改質技術があらゆるニーズにお応えします。

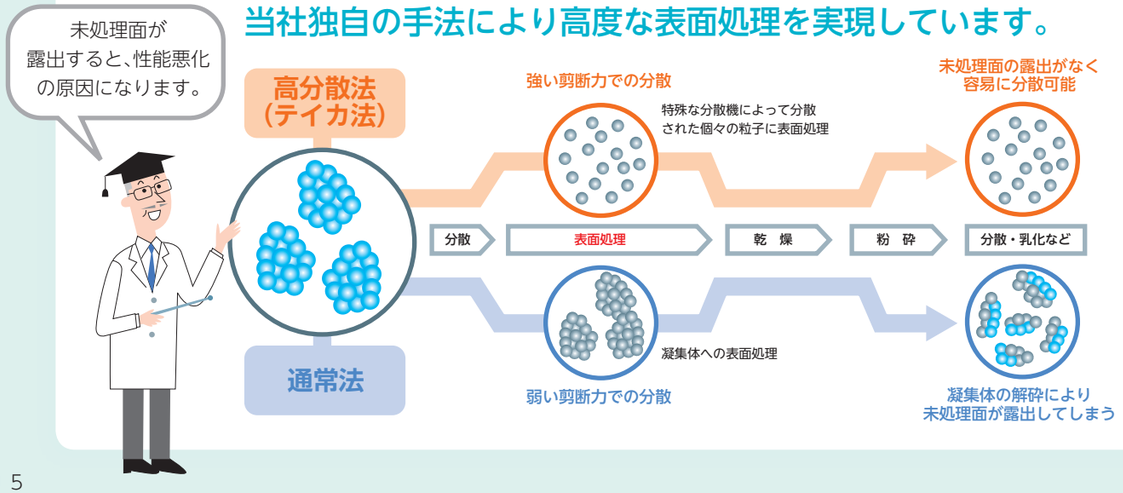
表面処理製品は、微粒子酸化チタンなどの無機粉体を、さまざまな特性を持つ有機化合物でコーティングすることにより高機能化、高付加価値した粉体材料です。




## 表面処理工程

### 当社独自の手法により高度な表面処理を実現しています。



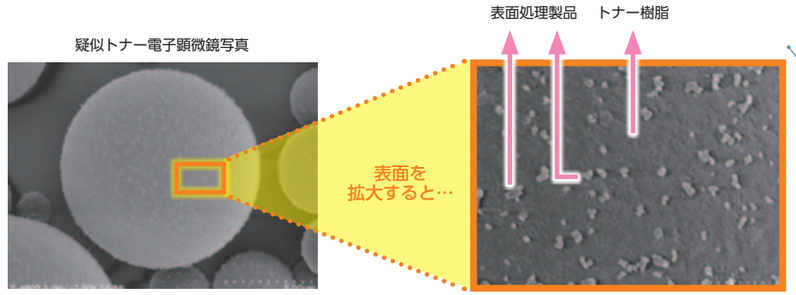


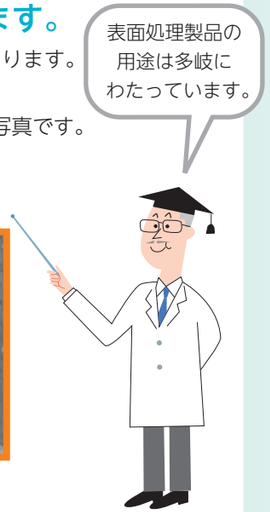

## 表面処理製品の用途

### 化粧品やプリンターのトナー添加剤などに使用されています。

表面処理製品は、「分散性に優れる」、「帯電量のコントロールができる」などの特性があります。その特性を生かして、化粧品やプリンターのトナー添加剤などに使用されています。

下の写真は、プリンターのトナー用外添剤※に使われている表面処理製品の電子顕微鏡写真です。




※トナー用外添剤：トナーに流動性や帯電性を持たせ、印刷をスムーズにする役割を果たしています。

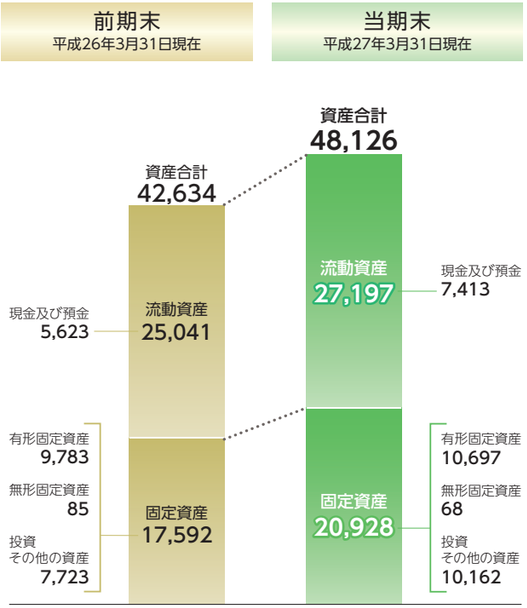
## 熊山工場の増設

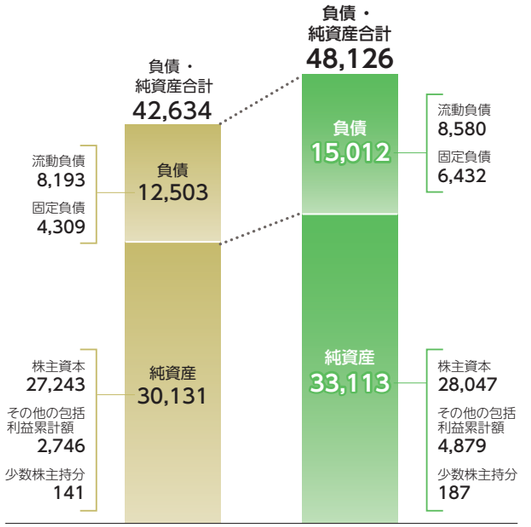
### 平成27年5月、熊山第2工場が稼働を開始しました。

表面処理製品の需要は年々増加しています。その需要に対応するため、新たな表面処理工場として、熊山第2工場を増設し、平成27年5月より稼働を開始しました。

この増設により、当社の表面処理製品の生産能力は、従来より1,200トン増加し、年間2,330トンになりました。

## 連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



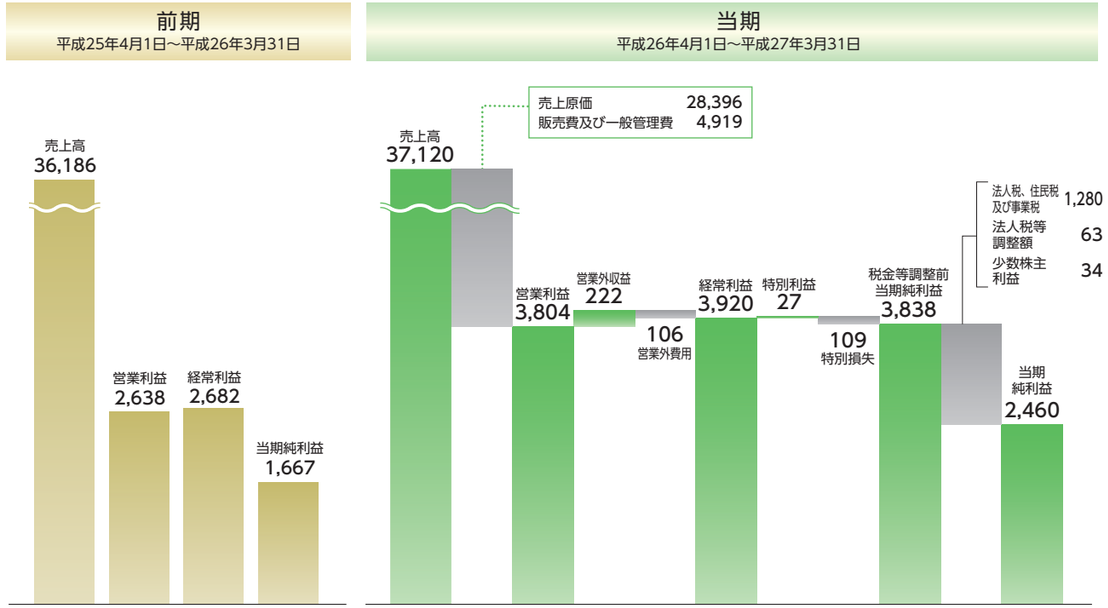

### POINT 1 資産合計及び負債・純資産合計

資産合計(総資産)は、現金、預金及び投資有価証券等の増加により、前期末に比べ54億9千2百万円増加しました。

負債合計は、借入金等の増加により、前期末に比べ25億9百万円増加しました。

純資産合計は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加により、前期末に比べ29億8千2百万円増加しました。

## 連結損益計算書の概要 (単位:百万円)




### POINT 2 営業利益

国内外市場における新規顧客の開拓や既存顧客との関係強化などを積極的に推進するとともに、事業全般にわたる効率化、合理化を図ることにより、売上拡大と収益性の向上に取り組み、営業利益は前期に比べ増加しました。

## 平成28年3月期通期連結業績予想 (単位:百万円)

| | 当期<br>平成26年4月1日から<br>平成27年3月31日まで | 来期予想<br>平成27年4月1日から<br>平成28年3月31日まで | 前期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 37,120 | 39,000 | +5.1% |
| 営業利益 | 3,804 | 4,200 | +10.4% |
| 経常利益 | 3,920 | 4,200 | +7.1% |
| 当期純利益 | 2,460 | 2,500 | +1.6% |

## ▶株式の状況 （平成27年3月31日現在）

| | |
|---|---|
| 発行可能株式総数 | 150,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 51,428,828株 |
| 株主数 | 4,169名 |

大株主

| 株主名 | 所有株式数（千株） |
|---|---|
| 三井物産株式会社 | 3,568 |
| 三菱商事株式会社 | 3,260 |
| 山田産業株式会社 | 2,940 |
| テイカグループ持株会 | 2,048 |
| みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口<br>再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社 | 2,018 |
| 双日株式会社 | 1,973 |
| 日本土地建物株式会社 | 1,389 |
| 関西ペイント株式会社 | 1,224 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） | 1,109 |
| 住友商事株式会社 | 1,000 |

(注) 当社は、自己株式3,818千株を保有しておりますが、上記には含めておりません。

## ▶分布状況

- 金融機関 …… 17.4%
- 証券会社 …… 2.0%
- その他法人 …… 42.3%
- 外国法人等 …… 8.8%
- 個人その他 …… 29.5%

- 1,000,000株以上 …… 47.1%
- 100,000株以上 …… 27.7%
- 50,000株以上 …… 5.6%
- 10,000株以上 …… 9.1%
- 5,000株以上 …… 3.0%
- 1,000株以上 …… 7.0%
- 1,000株未満 …… 0.5%

## ▶会社概要 （平成27年6月26日現在）

| | |
|---|---|
| 設立 | 大正8年12月 |
| 資本金 | 9,855,953,999円 |
| 従業員 | 476名（平成27年3月31日現在） |
| 事業内容 | 各種化学工業薬品の製造、販売（酸化チタン、界面活性剤、硫酸、微粒子酸化チタン、表面処理製品、無公害防錆顔料ほか） |
| 事業所 | |
| 本社事務所 | 大阪市中央区北浜3丁目6番13号<br>〒541-0041　電話（06）6208-6400（代） |
| 本店<br>大阪工場 | 大阪市大正区船町1丁目3番47号<br>〒551-0022　電話（06）6555-3250（代） |
| 東京支店 | 東京都中央区日本橋3丁目8番2号<br>〒103-0027　電話（03）3275-0815（代） |
| 岡山工場 | 岡山市東区西幸西1072番地<br>〒704-8136　電話（086）946-8311（代） |
| 熊山工場 | 岡山県赤磐市小瀬木50番地1<br>〒709-0717　電話（086）995-9290（代） |
| 役員 | 代表取締役会長　清野　學 |
| | 代表取締役社長　名木田　正男 |
| | 常務取締役　山崎　博史 |
| | 常務取締役　辺見　武志 |
| | 取締役　池上　毅 |
| | 取締役　戸澤　正明 |
| | 取締役　西野　雅彦 |
| | 取締役　古城　康治 |
| | 取締役　田中　等 |
| | 常勤監査役　岡田　功勝 |
| | 常勤監査役　宮崎　晃 |
| | 監査役　山田　裕幸 |
| | 監査役　山本　浩二 |

(注) 取締役 田中 等氏は、社外取締役であります。常勤監査役 岡田功勝ならびに監査役 山田裕幸、山本浩二の各氏は、社外監査役であります。また、当社は株式会社東京証券取引所に対して田中 等、山田裕幸、山本浩二の各氏を独立役員とする届出書を提出しております。



## 株主メモ

| | |
|---|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会基準日 | 3月31日 |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 |
| 定時株主総会 | 6月下旬 |
| 単元株式数 | 1,000株 |
| 株主名簿管理人<br>特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 〒541-8502　大阪市中央区伏見町3丁目6番3号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部<br>電話0120-094-777（通話料無料） |

（ご注意）

1.株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り次ぎいたします。

3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

| | |
|---|---|
| 公告方法 | 電子公告<br>公告掲載URL　http://www.tayca.co.jp/<br>（ただし、電子公告により行うことができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告を掲載いたします） |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所　市場第1部 |

テイカ 100周年へ

# あの日あの時 第4回

## 1950年、酸化チタンの製造を決定

終戦後、岡山工場の復興の柱となる製品を模索。自社生産の硫酸を効率良く活用できる酸化チタン製造の検討を始めました。そして、1950年（昭和25年）4月、岡山工場にて酸化チタンを製造する方針を決定しました。

## 1952年、酸化チタンの輸出に注力

当時使用した木樽

1952～1954年（昭和27～29年）まで、酸化チタンの輸出には木樽が使用されていました。しかし、木樽は効率が良くなかったため、木箱、段ボール箱への変更を経て、1955年（昭和30年）代からは紙袋を使用するようになりました。

当時の岡山工場 航空写真
（1954年5月15日）

岡山工場 1号カルサイナー

TAYCA
テイカ株式会社
http://www.tayca.co.jp/

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022337 www.fsc.org
本印刷物は、FSC®認証紙と植物油インキを使用しています。
VEGETABLE OIL INK
UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。